

だい 37 かいみやまえちくせいしょうねんさくひんてん かいがぶ こうひょう 第 37 回宮前地区青少年作品展『絵画の部』講評

この作品展は、宮前地区の子供たちが自宅や地域の子ども会などで描いた絵が集まる、今年で 37 回目となる作品展です。

絵画、イラスト、デザイン、ちぎり絵等の様々な作品を通して、子供がどんなことに心が動き、作品に「思い」を表現したのかと、想像しながら審査をしました。自分の好きなことを表現した作品、独創的な発想で想像した世界を表現した作品、生活の中で頑張ったことやうれしかったことを表現した作品、家族や仲間との思い出が表現された作品等に出会うことができました。

作品に表現されている主人公の表情が生き生きとしており、心温まる子供の瑞々しい感性を感じられる作品に心が動かされました。また、思い出の情景や静物画では、色づかいの素晴らしさを感じました。

小・中学校の子供たちは 1 人 1 台のパソコンを使うことで、画像を簡単に手に入れることができるようになりました。だからこそ、より自らの想像力を働かせ、「思い」を絵に表し、より自分らしい表現を追求していくことを大切にしていってほしいと思います。来年もまた、子供たちの心が動いた「思い」がいっぱいつまった作品が、たくさんつくられることを願っています。

しんさいん かわさきしりつひさもとしょうがっこう きょうとう ふじわら ゆうこ
審査員 川崎市立久本小学校 教頭 藤原 由布子